

# 特集 「世間の常識って本当？」

## 【社会問題の常識】

# 環境は悪化しているのか

評論家・翻訳家 山形 浩生

昭和39年、東京生まれ。東京大学大学院工学系研究科都市工学科及びマサチューセッツ工科大学大学院修士課程修了。シンクタンクに開発コンサルタントとして勤務の一方、経済、文化、コンピューターなど幅広い分野で執筆、翻訳を行う。著書に『要するに』『新教義主義宣言』『山形道場』などのほか、翻訳書も多数

地球は確かに温暖化している。が、100年単位の視野で見た場合、それはどのくらい大きな問題なのか。各国は、地球上の二酸化炭素を減らそうと、京都議定書の試みを取り上げてはいるものの、守るつもりもなさそうだ。本当に環境は悪化していると言えるのだろうか。

昔は環境問題といえば、水俣病や光化学スモッグなどの公害でした。大量の人が死んだり障害を起こしたり、朝礼中の小学生がバタバタ倒れたり、あるいは山がはげ山と化し、川や海はヘドロと腐臭に満ち、だれが見てもひどいものではありません。

でも、そんなひどい環境問題はほぼ解決しました。今や世間は、10年に1人患者が出るかどうかの狂牛病とか、だれ1人影響が出ない、農薬多めの中国野菜とかくらいしか騒ぐネタがありません。一時は大騒ぎされた環境ホルモン問題も、全くのガセでした。

だから「環境はどんどん悪化している」というのはウソです。環境が悪化しているところも部分的にはあります。でも全体としては、ほとんどの問題はなおむね解決済みです。

唯一、残っている大きな話が、地球温暖化です。これは二酸化炭素が熱を貯める効果があるために発生する現象です。人々が石油石炭を燃やすので空気中の二酸化炭素も増え、それが太陽からの熱を貯めて、地球が温暖化している、という話です。

さて、地球の温度がここ数十年、上がり続けているのは事実のようです。そして、人間による二酸化炭素がそれに貢献しているのもほぼ確実です。

ただ、それだけが原因かは議論が分かれます。これまでも地球は氷河期になったり暑くなったり、勝手に温度が大きく変化しているのです。それに1

00年単位の話なので、夏が少し暑いとか暖冬だったとか、そういうレベルで温暖化の話をしてはいけません。そして温暖化がそんなに悪いことか？

温暖化のせいで台風が増えるというのはウソです。海面は上昇しますが、東京やロンドンが水没したりすることはありません。100年で10センチとかそんなものです。北極の氷も戻り始めているようです。実は被害は限定的です。

そしてそれを減らそうとする試みが京都議定書です。各国が一斉に二酸化炭素の排出を減らそうと公約するものです。が、多くの参加国は目標を達成できそうにありません。二酸化炭素排出を減らすにはものすごくお金がいるからです。

EUは、昔から温暖化関係の国際会議でえらいようなことを言いますが、昔



から削減目標をぶちあげては達成できずにうやむやにするのを繰り返しています。結局政治的なポーズなんですね。そして、議定書の枠外の発展途上国は、排出を大幅に増やしています。みんな生活水準を上げるためにエネルギーが必要だからです。

そして、その京都議定書が完全に達成されたとしても、実は温暖化はほとんど止まりません。気候変動は100年単位の現象なので、数十年ほどでは全然影響がないのです。

まとめると、環境が悪化しているというのはウソ。温暖化は本当だが、人間だけが原因なのかどうかははっきりしない。そして、京都議定書で二酸化炭素を減らせば温暖化ストッパーとか温暖化防止とかいうのは全くのウソ。温暖化の被害はあるけれど限定的だし、それに100年単位の問題は100年単位で対策をすればいいのです。